

京都de 夏の大学トーク

講演会

大学と社会が拓く未来の知

第4回

動物から現代社会を考える

今日、人と動物をめぐる関係は奇妙にねじれたものになっています。ペットブームで室内飼いの猫や犬は年々増加しており、テレビなどでも毎日のように動物の姿が映し出されている一方で、動物に直接接する機会が全くないまま大人になる人も少なくありません。現代人の生活は動物なくして成り立たないにもかかわらず、人間と動物との間は明確な“境界”で隔てられているのです。

このシンポジウムでは、身近な家畜としてのブタ、近年「害鳥」として追われるようになったカワウ、自ら野生動物を狩る狩猟民に焦点を当て、人と動物の密接で複雑な関係を紐解きます。“境界線”で繰り広げられてきた人と動物のせめぎ合いは、自然から隔絶されて暮らす私たちに何を教えてくれるのでしょうか。

演題

講演1：沖縄のブタと人——産業社会の矛盾をうつす好悪の揺らぎ

比嘉理麻（沖縄国際大学）

講演2：害鳥か益鳥か？——カワウと森と人の関係史

亀田佳代子（滋賀県立琵琶湖博物館）

講演3：狩り狩られる経験のなかで——“人—動物”境界の攪乱

菅原和孝（京都大学名誉教授）

討論：動物から現代社会を考える

ゲスト：山極壽一（京都大学総長）

日時：2016年7月29日（金）18時～20時

会場：思修館ホール（京都市左京区吉田中阿達町1 京都大学東一条館B1F）

対象：90名（要事前申込。申込多数の場合は抽選とさせていただきます。）

主催：京都大学、京都大学学術出版会、活字文化推進会議

後援：読売新聞社・読売教育ネットワーク





大学と社会が拓く未来の知について

日本のフィールド科学の祖とされる今西錦司博士が『生物の世界』を著して、すべての生物に社会があると宣言したのは、1941年、39歳のことでした。当時、ヒトとヒト以外を同列に扱うことは欧米の学界から強い批判を浴びました。しかし人文科学と自然科学との垣根を取り払い、人間中心の世界観を覆した日本の学術は、今や、様々な分野で世界をリードしています。地球規模、あるいは生命史・人類史の長さを見据えて解決すべき問題に私たちが直面する今日、若き日の今西錦司が挑戦したように、今、京都大学の研究者は、未来を拓くための様々な研究に勤しんでいます。週末の一時、こうした研究者を囲んで、歴史と未来を大いに語ってみませんか。



比嘉理麻 ♦ひが りま

沖縄国際大学・講師

1978年千葉県生まれ。筑波大学大学院人文社会科学研究科博士課程単位取得退学、博士（国際政治経済学）。日本学術振興会特別研究員PD（京都大学）を経て、2015年4月より現職。専門は文化人類学、沖縄研究。主著に、『沖縄の人とブタ—産業社会における人と動物の民族誌』（京都大学学術出版会）、『食べる—生命的教養学12（仮題）』（近刊、共著、慶應義塾大学出版会）、『カルチュラル・インターフェースの人類学』（共著、新曜社）、"Revisiting Colonial and Post-Colonial"（共著、Bridge 21 Publications）など。



亀田佳代子 ♦かめだ かよこ

滋賀県立琵琶湖博物館・総括学芸員

1966年神奈川県生まれ。京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。キジバトの繁殖生態に関する研究で博士（理学）を取得。1996年12月から滋賀県立琵琶湖博物館で動物生態学担当学芸員として勤務。生態系におけるカワウの物質輸送機能や人との関わりについて研究している。主著に、『保全鳥類学』『流域環境評価と安定同位体—水循環から生態系まで』（共著、京都大学学術出版会）、『水辺と人の環境学（中）—人々の生活と水辺』（共著、朝倉書店）など。



菅原和孝 ♦すがわら かずよし

京都大学・名誉教授

1949年東京生まれ。京都大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学。京都大学理学博士。2013年第8回日本文化人類学会賞受賞。北海道大学文学部助手、京都大学教養部助教授、同総合人間学部教授、同大学院人間・環境学研究科教授を経て、2015年4月より現身分。主著に、『狩り狩られる経験の現象学』『会話の人類学』『語る身体の民族誌』（京都大学学術出版会）、『身体化の人類学』（編著、世界思想社）、『ことばと身体』（講談社）など多数。



山極壽一 ♦やまがわ じゅいち

京都大学・総長

1952年生まれ。京都大学理学部卒業。京都大学理学博士。専門は、人類学、靈長類学。日本靈長類学会会長、国際靈長類学会会長を歴任。日本アフリカ学会理事、環境省中央環境審議会委員、日本学術会議会員、国立大学協会副会長を務めている。アフリカ各地でゴリラの行動や生態をもとに初期人類の生活を復元し、人類に特有な社会特徴の由来を探っている。

申し込み方法

事前申し込みが必要です。メールまたは往復はがきで京都大学学術出版会 シンポジウム掛までお申し込みください。その際、
・講演会参加希望 ・氏名・年齢・職業・住所、郵便番号・電話番号・メールアドレス
をお知らせください。お申し込みが多数の場合、抽選を行います。原則として7月22日（金）までに、
ご登録いただいたメールアドレスに抽選結果をお送りいたします。7月22日を過ぎてもメールが届かない場合は、誠にお手数ですが、事務局までご連絡下さい。

〒606-8315

京都市左京区吉田近衛町69番地 京都大学吉田南構内
京都大学学術出版会 シンポジウム掛

TEL: 075-761-6182

Email: sympo@kyoto-up.or.jp